

ウイルグループの子会社で建設技術者の人材派遣を手掛けるウイルオブ・コンストラクション（東京都新宿区）。東日本震災の復興支援を目的に設立され、現在は新卒を積極的に採用しゼネコンなどの現場で活躍している。施工管理に加え、BIMやDXを使いこなす人材の育成にも注力。建設会社と同じ目線で課題解決に取り組み、業界を革新していくパートナーとして共に成長する将来像を描く。

——就任の抱負を。

「現在は建設業に特化した人材派遣会社という立ち位置だが、人材に特化した建設業界の会社に変化していきたい。ゼネコンとサブコン、そして人材の会社という関係で共に歩むイメージだ。人材不足や高齢化が課題になっており、残業規制も来年度に始まる。人材派遣の中で課題解決にとどまらず、業界の課題に同じ目線で取り組みたい」

「日本はインフラや建物か

## ウイルオブ・ コンストラクション

ひろし 謙氏  
たなか 田中

# 業界変革のパートナーに

ほぼメイド・イン・ジャパンで、これは大事にすべき文化だ。災害大国でもあり、建設産業はなくてはならない。建設業を格好しい仕事に変えられたら、後世に向けて大きな価値になる。人という側面から社会課題に向き合い、若手

を育てて社会貢献したい」

——注力する点は。

「人材派遣業は定着率が肝だ。新卒は1年間、中途は半年間、営業担当と研修講師が二重でフォローする取り組みを始め、定着率が上がった。施工管理だけでなく多様なキャリアを描けるようにし、成長を実感してもらいたい。ブランドینگを通じて、より人が集まる会社にした」

「顧客の課題は労働力だけではない。生産性を上げる必要がある。そのためにDXやIT、BIMに取り組める人材を育てる。少しずつニーズが出てきている。現状では、利用しているシステムが会社によってばらばらで、同じ会社でも現場によって違うことがある。顧客に合わせて専用のDX人材を育成し、パートナーとなって業界を変えてい

くことが理想だ」

——今後の目標を。

「建設業界の価値観やスタンダードを変えるというミッションを掲げている。当社は採用の約半数が女性だ。当初は女性に難色を示していた顧客でも、結果的に非常に喜んでくれたことがある。こうした小さな変化を積み重ねて、少しずつアップデートしていきたい。外国人の現場監督はまだ少ないが、そこにも風穴を開けたい」

「派遣に加え、いろいろなサービスや価値を提供できる会社にしてナンバーワンを目指す。将来的には、DXやグローバル展開も新たな柱にしたい。我々の技術者が月面プロジェクトに参加することが個人的な夢だ。そういうビッグドリームを追っていく」。

（4月1日就任）



## 新社長

2004年大東文化大学経済学部経済学科卒、セントメディア（現ウイルオブ・ワーク）入社、18年C4（現ウイルオブ・コンストラクション）取締役。19年管理本部長、22年同兼営業本部長。毎年新たな趣味を始め、今年は釣りに挑戦する予定。好きな言葉は「神は細部に宿る」。東京都出身、41歳。

